

まちづくりに関する意見・提案とりまとめ(更新版)

テーマ		取組内容	理由
①くらし・環境	1	東西に長い苦小牧において、中心部への利便性の充実	・今後想定される高齢者社会において、住み良い社会を充実させるため ・苦小牧市が東西に長いことから、西部からの利便性が悪いという声をよく聞く。例えば錦岡からイオンまで行きたいがどうすればよいかなど、交通の利便性をよくするという提案である。 ・特に移動手段が限られる高齢者にとっては重要である。
	2	交通の便の向上のため、予約制乗合タクシーの普及を図る	・市内各地域から新千歳空港へのアクセスが不便である。リムジンバスの運行もなく市内バスとの兼用のため時間が正確でなく、所要時間もかかり過ぎる。 ・午後9時以降に到着する便を利用する場合には、千歳空港発苦小牧行きのリムジンバスもなくなり、大変不便である。 ・荷物が多い時には、乗り継ぎの多い列車より、ドア・ツー・ドアのタクシーが便利である。 ・秋田空港では、20キロメートルまで1500円で事前予約制の乗合タクシーが利用できた。(リムジンバスは940円) ・苦小牧駅近辺で、会合などがあった場合、明野新町より東の地域に住む者にとって、タクシーを利用せざるを得ないことがある。植苗・美沢地区の方々が利用しているような「コミュニティバス」が利用できると助かる。
	3	公共交通機関の利便性向上	自家用車の利用が非常に多い苦小牧においては、公共交通機関の整備・利便性の向上や公共施設、医療・福祉施設の適正な配置を図る必要がある。さらに、近年、多発している高齢者の交通事故防止につなげる必要がある。
	4	住宅地域の除雪等も考慮したコンパクトシティという考え方を示し、買い物・医療・教養施設(スポーツや各種講座サークルの会場)などを結ぶバス路線の在り方を再構築するべきである。	・今冬の道路状況を考えると交通手段が公共交通機関だけという人だけでなく、道路がツルツルでゴミ出しやちよつとした外出も大変であった。 ・コンパクトシティという考え方も入れていく必要があると思う。特に高齢者に対しては、まちなかにサービス付き高齢者住宅を作って、現在に自宅を若い人に貸したり、売却したりするなどして移り住んでもらうという考え方も必要だと思う。 ・コンパクトシティということで、東西分布を中央に集めれば良いとなれば、今住んでいる人たちは不安になると思う。その際は、市民の意見をよく聞いて、安心できるように取り組んでほしい。例えば、中心を1つでなく3つや4つにするなど、市民が意見を十分に言える場を作る必要がある。
	5	日高線の廃線のみならず、室蘭本線の動向も十分に視野に入れたうえで、通勤通学圏の確保と充実を図る。	・買い物客の他地域への流出が懸念させるほか、今後はインターネット取引などの影響が大きくなると考えられ、消費活動を地域に留めるためにも、圏域内での人の動きを確保する必要がある。 ・JRの苦小牧－札幌間のS切符が廃止されて不便を感じている。

まちづくりに関する意見・提案とりまとめ(更新版)

テーマ		取組内容	理由
①くらし・環境	6	交通事故等の防止や、公共交通機関の運行等の効率化、利便性向上を図るための車や人の流れの調査	高速道路の中央インターチェンジ開通に伴い、車の流れ、人の流れも変化することが考えられるため
	7	町内会館における耐震化・太陽光発電設備など、災害時の一時避難所としての整備(町内会との連携・活動支援)	・町内会の役員も高齢化が進み、若い人の成り手がいない状況の中、自治体との連携を進める必要がある。 ・災害時、高齢者が高齢者を避難誘導する現状を考えたときに指定された避難所までの移動が大変難しい。近くの町内会館に耐震化や太陽光発電などを備えた一時避難所として整備を進める必要がある。
	8	住宅の新築だけではなく、住宅の交換をあっせんする環境を整える。	・子供の独立や転出により、高齢者が大きな家に1人や2人で暮らし、子育て世代が手狭な家に住んでいるというミスマッチを解消できるのではないかな。 ・子育て世代の出費を抑えることができるとともに、高齢者が亡くなったり、他都市の子供のそばに行った後の空き家対策にもなるのではないかな。
	9	くらしや地域活動に関する一次的な相談窓口の充実	・消費者協会が関わる消費者被害防止ネットワークでは、高齢者の被害を未然に防ぐという役割が大きく、民生委員や包括支援センターなど福祉分野と大きく関わっている。 ・日ごろの活動から高齢者や障がい者の被害を見つけていく必要があり、縦割りではなく、トータルでの見守り活動、ケアネット活動などを行っていく必要があると感じている。 ・消費者被害、防災、防犯等と分けるのではなく、一次的な相談をくみ取り、そこからさらに高度専門窓口につなげる制度づくりが必要ではないかな。
	10	退職をし、体力的にも地域活動で活躍できる人は多く、そのような人をうまく巻き込んでいく仕組み作りが重要である。	個人アンケートでも地域活動への参加に関心のある人も多いことや、消費者・防災・防犯情報などを正しく市民に伝え、いざという時の共助に役に立つと考えられるため。
	11	・各種のイベント参加、ボランティア参加を通じて地域資源を知ること。 ・ICTを活用した「情報入手」「情報交流」「情報発信」を活性化させる	・地域活性化のポイントは数多くあるが、地域の人がある地域の魅力を知らない、感じていないことに基本的な問題がある。それらに精通することにより、地域活性化の「場づくり」「人づくり」そして「継続」が可能になってくる。 ・まず、「やってみる」ことが重要。100やって2、3の継続があれば大成功である。 ・「まちづくり」の牽引者は「よそ者・わか者・ばか者」である。

まちづくりに関する意見・提案とりまとめ(更新版)

テーマ		取組内容	理由
②福祉・保健・医療	1	地域に現存する「医療資源」と「介護福祉資源」各々の機関が、共通の認識を共有する体制の構築	・国全体の少子高齢化の同時進行と急速化に直面する中、苫小牧市の高齢化率が全道平均を下回っているとはいえ、必ず直面する問題である。 ・苫小牧看護専門学校では、卒業後ほとんどが苫小牧市を離れ札幌に行く。何とか地元の子を採用して地元で定着させたい。 ・医療に関して、10年前から見ると開業医の数が2割減少。10年後には、さらに減少していくと考えられる。高齢化が進む中で医療資源が減少していくことは緊急の事態である。病院の勤務医にも協力いただいて地域医療を守っていくという働きかけをしている。 ・2月1日、市の委託事業で、「医療介護連携センター」を開設した。包括支援センターと連携しながら、医療と福祉の垣根をとり、開業医に在宅医療をと働きかけをしている。地域にあった在宅医療を含めた健康管理ができる仕組みを作っていきたい。 ・直面した事態に備えるべく、関係機関が一丸となって対策を構築していく必要がある。
	2	安心して暮らしていける福祉・医療	・他の自治体より充実した福祉医療環境の確立 ・障がい者が安心して生活できる福祉の充実 ・介護保険でのヘルパーとの連携による医療の充実 ・安心して受診できる苫小牧市の医療
	3	今年度行われている「みんなでふくし大作戦!!2016」のような、地域包括ケアについての市民理解・広報・啓発・普及活動を単年度事業ではない形で継続すること	・高齢化社会に対する市民の意識が高いこと ・市の都市イメージ・課題として「福祉都市」の意識が高いこと ・地域福祉に係わる理解、担い手の発掘は、単年度事業で成果のあがるものではないと思われる。市民理解や関心が深まり、地域での「自助・互助・共助・公助」の助け合いが根付くまで、関係機関の努力だけでなく、行政主導の活動継続が必要と考えられる。
	4	地域総合福祉推進(ケアネット活動)	・地域の人ができる見守りや話し相手などの支援活動を通して、地域住民の相互の支え合いをつくるとともに、福祉保健医療など生活を支援する関係者ともネットワークをはかることで、誰もが安心して生活できる町(地域)づくりを進める。 ・地域で民生委員が、見守り、相談、安否確認等を行っているが、民生委員も高齢化しており、新たになり手もないことから、75歳を過ぎても委員として活動してもらっている。 ・一人暮らしの高齢者が今の場所で安心安全に暮らせるために、行政、専門職、町内会、民生委員、包括支援センターなどが地域でチーム(3~5人)を組んで、役割分担をしながら見守り支援をしていく。専門的な相談については、行政や包括支援センターが担うというのが良いのではないかと。

まちづくりに関する意見・提案とりまとめ(更新版)

テーマ		取組内容	理由
②福祉・保健・医療	5	高齢者用マンションをまちなかに建設し、コンパクトシティ化を図る	・自分も前期高齢者であり、シニア情報生活アドバイザーとして、15年の活動のなかで、自分より10歳以上年上の元気な女性たちを手本として過ごしてきた経験による。 ・住み慣れた地域もよいが、交通の便がよく、人の沢山あつまるところをつくり、そこに足を運び、運動をしたり、学び合ったり、世代の異なる人たちとの交流を通して、自分も社会の中で役に立っているという実感を得て、前向きに生きていける環境を整える必要がある。 ・高齢者がバラバラに住んでいては、その人たちの見守りも大変である。
	6	福祉・保健・医療に関する相談窓口の充実	・高齢者に限らず、福祉・保健・医療に関しては、利用する前にどのような制度や施設があるのかという情報が個人ではなかなか手に入りにくいから ・包括支援センターについて、まだ十分市民に浸透していないように感じる。また、相談の窓口はあるが、細分化されすぎていて、どこに相談に行ってもよいかわからないのかもしれない。 ・市役所のワンストップ相談窓口の拡充も含めて、一時的に相談を受け付け、適切な相談ができる窓口へ紹介していくという仕組みをつくる必要がある。
	7	福祉施設やサービスの担い手確保	・福祉施設やサービスの担い手が定着しない。興味があるが長続きがしない。 ・働きやすい場所を作り、興味がある人に苦小牧に来てもらえるような仕組みがあると良い。
	8	保育所・指定幼稚園の適正な配置計画	働く親にとっては、保育所や幼稚園は、必ずしも自宅に近いことが都合良いとは限らない。通勤途中や災害時、職場から近い方が利用しやすい場合もある。
	9	子育て支援の充実	・共働きの若い夫婦世帯では、子育てに専念するのは難しいと感じている。 ・子育て世帯が安定した仕事に就けるように、自治体や関係機関の支援を。
	10	専門病院の充実	・市立病院・王子総合病院では対応できない難病患者（潰瘍性大腸炎（指定難病））は、対応する札幌の専門病院に行く必要がある。札幌へ通院する負担軽減のためにも市内の充実が望まれる。 ・車椅子生活でかかりやすい、お尻の褥瘡（じよくそう・いわゆる床擦れ）を治せる病院が苦小牧市内に1か所しかない。 ・治療には半年程度の入院が必要、再発すると1年程度入院となるが、1か所しかないので混んでいて入院できない。形成外科の専門の医師がいると助かる。

まちづくりに関する意見・提案とりまとめ(更新版)

テーマ		取組内容	理由
③教育・文化	1	協働型コミュニティスクール型小・中一貫型義務教育学校の設置	・2019年度開校予定のウトナイ中学校は小学校に隣接しており、小学校5年間・中学校4年間の一貫型の義務教育学校として運営して欲しい。 ・また、苫東に大学など学園都市を作ればよいのではないか。
	2	他都市より苫小牧に集まる文化の充実	・基礎教育小・中・高12年だが、札幌では中高一貫、あるいは大学まで用意されているところもある。 ・苫小牧でも、そうした教育が受けられるところがあってもよいのではないかという提案である。 ・他自治体から苫小牧市に集まる文化の充実
	3	市内大学におけるものづくり地域に合った専門学科の新設	市内大学において地域で活躍する人材を育成するためには、ものづくり地域に合った専門学科や高校の専門性を活かした進学機会を提供できるような学科を新設するなど、大学と地域のマッチングを図る。
	4	進路指導担当教員に対する市内企業の認知を高め、生徒の市内企業への就職促進を図る	・進路指導担当教員の市内ものづくり中小企業の認知が低い。 ・自治体、関係機関、経済団体等でPRし、子どもたちに市内企業に就職してもらうようなことを考えていく必要がある。
	5	充実した教育が受けられる機会を保障すること。就学の援助制度の充実や交通機関の利便性を確保することで自宅通学を可能にするなど、多角的に整備する必要がある。	・大学や専門学校についてはそのニーズが多様であることから、地元だけでの就学は無理である。 ・多様な就学先を確保するためにも、就学を妨げる要因を把握し、対応を検討する必要がある。 ・苫小牧駒澤大学が別の学校法人に移管され、さらに現苫小牧駒澤大学キャンパスに白老町にある高校の移設を検討との報道もあった。こうした変化も見えていく必要がある。

まちづくりに関する意見・提案とりまとめ（更新版）

テーマ		取組内容	理由
④都市基盤	1	・駅前(周辺)活性化 ・東西地域差解消	・イオンモール周辺の活性化が目覚しい一方、駅周辺が停滞している。 ・駅より西側に居住している者にとって、イオンモール周辺は、距離も遠く、バスによるアクセスも駅終点が多く、良いとは言えない。 ・駅周辺でも買い物を済ませたい。 ・車でなければ買い物に行けない状況を解消して欲しい。 ・イオン周辺以上に札幌は魅力がある。苫小牧から札幌に通勤通学もできるが、札幌の環境が良いとなると札幌に移ってしまうのではないか。苫小牧市内がもう少し充実すれば、流出も減るのではないか。
	2	公共施設並びに医療・福祉施設の適正な配置	東西に長い苫小牧市において、東部地区の整備などが積極的に進められているように思われるが、高齢者が多い西部地区の都市整備の見直しも必要である。
	3	上下水道の施設や管の老朽化などによる事故がないよう絶えず点検、整備、更新を行う。	上下水道の満足度は高くこれからも期待しているところであり、その信頼を維持していくため。
	4	同一の場所で工事等が重なっているときは、個別に工事するのではなく、他機関とも連絡を密接にして、同時期に行うなどの工夫をしてほしい。	・近隣住民や道路等の利用者への負担軽減を図るため ・経費節減のため

まちづくりに関する意見・提案とりまとめ(更新版)

テーマ		取組内容	理由
⑤産業	1	公共物、案内、公共交通の多言語表示を増やす	・交流人口が増えれば雇用も増えるのではないか。 ・他市(特に、千歳や札幌のような都市)のように外国人観光客が来ることを前提としたまちづくりを行うことで、外国人にとってスムーズに移動できる環境を整え、好印象を持ってもらうため。
	2	フィルムコミッションの充実	・マンガ「僕だけがいない街」で、舞台となった美園小や科学センターのヒグマの剥製を見に訪れている人がいることを新聞等で知ったため。 ・「君の名は。」の舞台である飛騨には、多くの人が訪れており、当市も映画ロケやマンガの舞台といった聖地巡礼による観光客を増やすため。
	3	人口減少に対する施策のあり方	・企業においても人手不足は深刻な問題であり、高齢者の再雇用・定年制の延長や若手社員への技術の伝承など、高齢者の働く機会を増やす取組に対して自治体が支援してはどうか。 ・地元の新卒者採用に対して自治体が支援をすることで、大都市への若者の流出を防ぐ。
	4	企業を誘致していく一方で、起業家を育てて大きくするというのも大切にする必要がある。	誇りをもって「いきいきと働くことができる場」を作っていくため
	5	いきいきと働くことができる場を増やす	・市民アンケート結果では、「いきいきと働くことができる場があること」が、重要度が高いのに対し満足度が産業分野の中で最低。 ・働くということは生活の基盤を作ること。「いきいきと働くことができる場」「自分の望む仕事ができる場」を増やしていくということが重要。 ・人手不足に関しては、若手社員の離職が多く、中間層が育っていない。若手社員を育成に行政支援がほしい。

まちづくりに関する意見・提案とりまとめ(更新版)

テーマ		取組内容	理由
⑥市政運営	1	労働者対策として必要な取組	・公契約条例の制定と発注事業における労働者の処遇の改善を図る。 ・苫小牧市の財政の健全化が進められる中、民間企業への指定管理者制度の活用により、労働の機会は多くなっている。しかし、指定管理の期間内だけの期間雇用やパート採用であり、正社員や安定した雇用にはつながらないことから、改善を図るべきである。
	2	産業活性化による雇用の拡大	ふるさと納税の取組を活用して、苫小牧地域の特産品の商品開発や観光アピールにより産業活性化を促進し、雇用拡大を図る。
	3	苫小牧市への定住・移住の促進	苫小牧の魅力や空き店舗、空き家を活用した支援を積極的に発信することで、移住・定住希望者が増え、人口減少の鈍化が図られる。
	4	市民へのサービスのために、市民の参加や協働によって、一緒に運営する市政情報誌を作る	・市民主体のまちづくりを目指す。 ・市民、行政のパートナーシップの強化
	5	市民の声を十分に生かす	人口の減少と高齢化率の増加といまだかつて経験したことがない社会が目の前に迫っている。 そのような社会に対応するために、発想の転換を行うとともに、そのような社会においても市民にとって安全・安心な生活を保証するため。
	6	創意工夫をもって市民のサービス向上にこたえなければならない。	財政状況は改善方向に向かっているものの今後、想定される歳入減や歳出増加に対応するため。
	7	60歳を過ぎた人たちに移り住んでもらって苫小牧を活性化するという視点	・元気な高齢者にとって苫小牧市は非常に魅力的である。若い人の定住をあげているが、60歳を過ぎた人たちに移り住んでもらって苫小牧を活性化するという視点があっても良いのではないかと。そうならば、その子供が孫を連れてきて、良い街だと感じれば移住してくるかもしれない。 ・若い人を引き留めようとするより、60代・70代でも良いと思う。

まちづくりに関する意見・提案とりまとめ(更新版)

テーマ		取組内容	理由
⑦その他 (全体に関わるもの)	1	市内企業、高校、大学等、行政が連携して、学生や若年層を巻き込み将来の苫小牧ビジョンについて語る交流会を定期的を開催し、将来、地域活性化や労働を担っていく若者たちと一緒に、まちづくりについて考え、実施する。	・苫小牧のまちづくりで大切なことは、産業が潤い、地域が活性化することである。 ・働く場所がなければ、仕事のしやすい環境がなければ若者は出て行ってしまう。 ・札幌との交通も便利になって、札幌が通勤圏になっており、苫小牧に住んで札幌で働いてもよいのに、若者は札幌に行ってしまう。 ・人口が減少する中で若者が地元にいるという環境づくりが、まちづくりの上では大切である。 ・高齢者と若者が共有して互いに暮らしていけるような地域づくりが大切だと思う。 ・若者が仕事のしやすい環境づくりを考えていく必要がある。 ・苫小牧に若者を残せる環境、若者が中心になれるまちを目指すのが第一。 ・スケート祭りや港祭りなどイベントの際は、20代から40代まで非常に多くの若者が集まる。そういう人たちが、今後のまちづくりを担っていく。
	2	今までの右肩上がりの人口増を想定したまちづくりを、大きく方向転換を行う必要がある。	苫小牧市においても一部の大都市圏域を除く他の地域同様急激な人口減少が想定されるから。
	3	アンケートを取ると苫小牧は利便性が高いがイメージが悪いといった回答が多いと聞か、その要因を分析することが必要。	イメージの問題と片付けるのではなく、十分分析することで、本市の問題点が浮き彫りになるのではないかな。